

高志の国
文学館

KOSHINOKUNI
Museum of Literature

高志の国文学館 年報

平成26年度

高志の国文学館 年報

平成26年度

目 次

I 平成26年度のあゆみ

平成26年度のあゆみ	4
------------	---

II 事業内容

1 展示活動	8
2 資料概況	26
3 教育・普及事業	27
4 高志の国文学館友の会	34

III 管理・運営

1 利用状況	36
2 施設の概要	38
3 機構	39
4 組織	40

IV 資料

沿革	42
----	----

V 関係法令

関係法令	44
------	----

I 平成26年度のあゆみ

平成26年度のあゆみ

年 月 日	事 項
平成26年 3月20日	企画展「まんが家 藤子・F・不二雄の「SF」(すこし・ふしぎ)」(6月2日まで)
4月6日	入館者25万人達成
4月13日	観桜の集い2014 in 高志の国文学館
4月26日	棟方志功未公開作品特別展示(5月12日まで)
6月5日	映画「春を背負って」パネル展(7月21日まで)
6月8日	文学講座(大学連携シリーズ)(8月3日まで 全4回)
7月6日	平成26年度「高志プロジェクト」優秀団体の発表
7月26日	企画展「風の盆 深奥の心をさぐる」(10月6日まで)
7月30日	第1回ノベル・まんが教室(7月31日まで)
8月6日	読書感想文サポート講座(8月8日まで)
8月13日	戦時下の暮らし展 in 高志の国文学館(8月20日まで)(主催:富山県戦後50周年記念事業委員会)
8月22日	文化フォーラム「～富山からのメッセージ～花と水と山、文化の交響」(主催:富山県)
8月24日	入館者30万人達成
8月29日	記念トーク「風吹ジュン×国井雅比古」(企画展関連)
8月31日	文学講座(ゆかりの文学者シリーズ前期)(10月19日まで 全3回)
9月12日	朗読と音楽の夕べ(11月16日まで 全5回)
10月10日	ギャラリー展「竹久夢二展」(10月26日まで)
10月12日	文学講座(ゆかりの文学者シリーズ後期)(1月11日まで 全4回)
10月30日	企画展「川の文学－うつりゆく富山の歴史の中で－」(12月23日まで)
11月2日	佐竹美保氏トークイベント「挿絵のこだわり」&茶話会(主催:高志の国文学館友の会)
11月26日	「高志の国文学」情景作品コンクール入選作品展示(12月27日まで)(主催:富山県教育委員会)
12月10日	映画「アオハライド」パネル展(5月7日まで)
12月21日	トークイベント&サイン会「内田もも香と富山の大自然」(主催:(公財)富山県文化振興財団)
平成27年 1月5日	第1回書道パフォーマンス(富山県立呉羽高等学校書道部)
1月7日	ギャラリー展「冷光文庫」展 －富山におり立った「雪の女王」を訪ねて－(1月26日まで)
1月10日	室内楽フェスティバル(主催:(公財)富山県文化振興財団)
1月12日	アフレコ体験教室
1月17日	朗読フェスティバル
1月24日	高校生による朗読会(1月25日まで)
1月28日	企画展「川の文学 美しきふるさと －富山の川をめぐる文学と美術の交響－(3月2日まで)
3月1日	第31回「平和の日」富山の集い(主催:日本ペンクラブ・「平和の日」富山の集い実行委員会)
3月7日	第2回書道パフォーマンス(富山県立富山高等学校書道部)
3月8日	中西進館長特別講演会「遥かなるもの－ポール・デルヴォーの世界」 (富山近美友の会、高志の国文学館友の会 共催)
3月13日	企画展「三禅定の旅－立山・白山・富士山をめぐる－」(5月11日まで)

主なトピックス

第31回「平和の日」富山の集い

平成27年3月1日(日)、オーバード・ホールで日本ペンクラブによる第31回「平和の日」富山の集いが開催された。約800名の聴衆を前に、日本ペンクラブ副会長でもある中西進館長と下重暁子氏との対談を皮切りに、新井満氏と太田治子氏、志茂田景樹氏と中島京子氏、浅田次郎会長と落合恵子氏が、それぞれ「旅」「愛」「命」「平和への祈り」をテーマに語り合った。



記念植樹

第31回「平和の日」富山の集いに先立ち、2月28日(土)には、高志の国文学館の万葉の庭で、浅田次郎会長はじめ出演者の皆様による記念植樹が行われた。植えられた木はツمام（タブノキ）。ツمامは、『万葉集』約4500首のうち、大伴家持が越中国で詠んだ223首の中の1首だけに詠まれている。

磯の上の 都万麻（つまま）を見れば 根を延へて 年深からし 神さびにけり（巻19・4159）

「繁栄」や「長寿」を象徴するツمامを植えることで、平和への祈りが子々孫々続くよう願いが込められた。



高志の国文学館の入館者数が30万人を突破

平成26年8月24日(日)、高志の国文学館の入館者が30万人を突破した。

記念すべき30万人目のお客様は、上市町からお越しの飛騨美乃（よしの）ちゃん、和香（のどか）ちゃん、崇佑（しゅうすけ）くんの3姉弟。夏休みももうすぐ終わりということで、お父さん、お母さんと一緒に来館したとのこと。

記念品として、石井知事から企画展にちなんで「おわら」関連グッズが、中西館長からもサイン入り著書が贈られた。30万1人目、30万2人目の入館者に対しても、記念品が贈られた。平成26年度末までの累計入館者数は、36万3,557人となった。



II 事業内容

1. 展示活動

□常設展示

概要

常設展示では、当館の収蔵資料を中心に、万葉歌人・大伴家持の越中万葉から現代文学に至るまで、富山県にゆかりのある作家や作品の魅力を紹介している。また、文学だけでなく、漫画や本県ゆかりの先人についても紹介している。

<ふるさと文学の回廊>

富山県ゆかりの代表的な文学者10人を、パネルや直筆原稿などの資料で紹介。このうちの5人については、順次展示替えを行うこととしている。また、回廊内に設置した4つのデジタル万華鏡では、大伴家持の生涯や山岳文学、富山県ゆかりの漫画家や先人について紹介。



「ゆかりの文学者たち」コーナー

<ふるさと文学の蔵①>

古代・中世の富山県ゆかりの文学作品を紹介するとともに、大書架「知の蓄積」では、富山県ゆかりの書籍や寄贈された資料を展示。

体験型装置「万葉とばし」では、大伴家持が詠んだ歌を音と映像で紹介。



体験型装置「万葉とばし」(左)と大書架「知の蓄積」(右)

<ふるさと文学の蔵②>

「ふるさと文学年表」により、万葉の時代から続く富山の文学について、その変容と発展を時代背景とともに紹介。

<ふるさと文学の蔵③>

富山県ゆかりの漫画家をパネルや愛用品とともに紹介。デジタル装置「不思議な本」では、漫画・アニメーションの制作工程を学ぶことができる。

このほか、富山大学附属図書館に所蔵されているヘルン文庫(小泉八雲の旧蔵書)資料や、富山が輩出した先人について紹介。



「ゆかりの漫画家」コーナー



「越中の先人」コーナー

□ 展示構成

平成27年3月31日現在

展示場所	展示の名称	展示の概要
導入展示	文学鳥瞰地図	富山県内に点在する文学ゆかりの地等を検索
	ふるさと文学万華鏡	大伴家持の生涯や山岳文学の歴史をデジタル絵巻で紹介
ふるさと文学の回廊	「ゆかりの文学者たち」コーナー	横山源之助 前田普羅 大井冷光 高島 高 暁 文兵 源氏鶏太 堀田善衛 柏原兵三 木崎さと子 宮本 輝
	ふるさと文学万華鏡	富山県ゆかりの漫画家や先人を映し出すデジタル万華鏡
ふるさと文学の蔵①	大書架「知の蓄積」	富山県ゆかりの書籍や寄贈資料を展示
	万葉とばし	大伴家持が越中で詠んだ歌を音と映像で紹介する体験型装置
	古代の文学／中世・近世の文学	万葉集、立山曼荼羅等を紹介
	辺見じゅんコーナー	辺見じゅん氏ゆかりの寄贈資料を展示
ふるさと文学の蔵②	ふるさと文学年表	万葉の時代から現代に至るまでの富山県ゆかりの文学を紹介
ふるさと文学の蔵③	「ゆかりの漫画家」コーナー	藤子不二雄 ^㉔ 藤子・F・不二雄 山根青鬼 山根赤鬼 まつもと泉 原 秀則 花咲アキラ
	ヘルン文庫コーナー	ラフカディオ・ハーン（小泉八雲） 南日恒太郎
	「越中の先人」コーナー	安田善次郎 浅野総一郎 高峰讓吉 正力松太郎 佐伯宗義 吉田忠雄

(注1) ゆかりの文学者および先人の一部について、関係の機関や個人より実物資料を借用のうえ展示した。

(注2) ヘルン文庫の展示については、富山大学附属図書館の協力を得て、所蔵資料の借用・展示を行った。26年度は4回の展示替えを行った。

□企画展示

(1)企画展「風の盆 深奥の心をさぐる」

会 期／平成26年 7月26日(土)～10月 6日(日)
主 催／高志の国文学館
協 力／富山市八尾おわら資料館、富山県民謡越
中八尾おわら保存会、越中八尾観光協会
担当学芸員／綿引香織
観 覧 者 数／4,338人
出 品 点 数／261点
印 刷 物／ポスター A1判 (2種類)
チラシ A4判 しおり (3種類)



ポスター1



ポスター2



チラシ

趣旨・総括

9月初めの3日間、富山市八尾町で開催される「おわら風の盆」は、優雅で洗練された踊りと哀切な調べで人々を魅了し、毎年全国から多くの観光客を集めている。

今では全国的に知られるこの行事も、現在の形に整うまでには、踊り、演奏、衣装、歌詞とも、時代とともにさまざまな変遷をたどってきた。おわらの歌詞

については、明治末頃から改良運動が始まり、昭和初期には、川崎順二の依頼を受けて八尾を訪れた文化人たちにより、多くの優れた歌詞が作られた。その後、おわら風の盆を題材にした小説や漫画、テレビドラマ等が数多く生まれ、その知名度の向上に一役買っている。このように「文学」は、おわらの洗練化や知名度の向上に重要な役割を果たしてきたといえるであろう。

本展では、文学者たちが残したおわらの歌詞や、おわら風の盆を語る文学作品等を通じて、深く風土に根ざしたおわら風の盆をめぐる文学の魅力にせまろうと試みた。

序章の「おわら 風と水のまちへ」では、おわらを育んだ八尾の風土とおわら風の盆の歴史を紹介し、あわせて、おわら節の構成と歌詞、伴奏、踊りの所作、衣装といった基本的な事柄について解説した。導入部分には、石畳や格子、ぼんぼりで諏訪町本通りをイメージした展示空間をつくり、八尾独特の情緒を生んでいる「エンナカ」の水音を流した。また、町ごとにデザインが異なるおわらの衣装のうち、正絹を用いて作られる青年男子用の法被を一堂に集めて展示した。

おわらの歴史のなかで、昭和4年(1929)6月に東京日本橋の三越百貨店で開催された「富山県特産品陳列会」の余興において、小杉放庵が作詞した「八尾四季」に日本舞踊の家元・若柳吉三郎が振付をした「新踊り」(女踊り)が初めて披露されたことの意義は大きい。これに関する貴重な書簡や舞台背景原画なども展示した。

第1章の「文士たちのまなざし」では、八尾を訪れた文学者・芸術家たちが残した歌詞と文章をあわせ



諏訪町本通りをイメージした展示室の導入部分

て紹介した。後におわら保存会初代会長となった川崎順二は、私財を投じ、画家、俳人、歌人、作家、民謡研究者、音楽家など、さまざまな分野の文士たちを八尾に招き、おわらの歌詞の制作を依頼した。これらの人々に、小杉放庵、小川千甕、郷倉千靱、前田普羅、翁久允、野口雨情、佐藤惣之助、町田嘉章、高階哲夫、川田順、吉井勇などがある。川崎と諸氏との交流を物語る書簡や「鱈腹帳」(サイン帳)、書画などの直筆資料、歌詞を書いた原稿等は、おわらの発展に文学がどのように関わって来たのかを伝える貴重な資料である。

第2章の「織りなす情の世界」では、「おわら風の盆」が文学作品のなかでどのように描かれてきたのかを考えるうえで重要な諸作品、長谷川伸『一本刀土俵入』、

五木寛之『風の柩』、高橋治『風の盆恋歌』、小玉ユキ『月影ベイベ』などを中心にとりあげた。高橋治は何度も八尾を訪れており、町内にはその交流の様子を伝える資料(色紙、サイン帳、写真など)が残されている。また、現在連載中の漫画『月影ベイベ』に関しては、直筆の線画や複製原画、カラーイラストパネルなどを展示し、物語とおわらの双方の魅力を紹介した。展示室外の回廊部分には、『月影ベイベ』単行本の裏表紙に描かれた、八尾の街並みと登場人物たちのイラストをつなげた特大パネル(縦2.7m×横5.8m)を設置し、来館者用の写真撮影スポットとした。

展示室内には三味線と胡弓のBGMを静かに流し、昔のおわらの演奏を聴けるコーナーも設けた。



八尾町11町の青年男子用の法被(右)と胡弓(左)



『風の盆恋歌』の展示(左手前)と『月影ベイベ』の展示(右奥)

□関連行事

①記念トーク

開催日	出演者	参加者数
8月29日(金)	風吹ジュン氏(女優)、国井雅比古氏(元NHKアナウンサー) 解説:古川克己氏(富山県民謡越中八尾おわら保存会) おわら公演:富山県立八尾高等学校郷土芸能部	580

②文学講座

開催日	講師	演題	参加者数
8月9日(土)	荒木 良一氏 (フリーライター、元北日本新聞社論説委員長)	おわらはこうして磨かれた	80
8月31日(日)	中坪 達哉氏 (富山県俳句連盟会長、俳句雑誌「辛夷」主宰)	前田普羅 その求道の詩魂	120
9月14日(日)	立野 幸雄氏 (射水市大島絵本館長)	哀愁漂う八尾の街並み —八尾の文学作品—	69
9月20日(土)	長谷川 洌氏 (元八尾町おわら資料館長)	うたの街だよ八尾の町は	84

③おわら公演、踊り方教室（輪踊り）

開催日	出演者	参加者数
7月26日(土)	富山県民謡越中八尾おわら保存会	60
8月9日(土)		50

④朗読と音楽の夕べ

開催日	出演者	作品	参加者数
9月12日(金)	朗読：富並望美（チューリップテレビ） 演奏：富山県民謡越中八尾おわら保存会	高橋 治 『風の盆恋歌』	120

⑤バスツアー

開催日	内容	参加者数
9月27日(土)	八尾の街中散策、「おわら風の盆ステージ」鑑賞	27

⑥担当学芸員による展示解説

7月26日(土)、8月16日(土)、9月21日(日)

□主な展示物

種別	資料(作品)名	作者	年代	所蔵
【序章】おわら 風と水のまちへ				
写真 (パネル)	町流し(諏訪町)	赤羽仁諭撮影		撮影者提供
イラスト (パネル)	八尾の町なみ (『月影バイベ』裏表紙イラストから)	小玉ユキ	平成25～26年(2013～2014)	小学館提供
写真	城ヶ山で若柳吉三郎と川崎順二を囲んで		昭和初期	富山市八尾おわら資料館
書籍	『八尾地理小誌』	多奈可 進	明治24年(1891)	富山県立図書館
書籍	『伝説・俗謡・童話・俚諺調査答申書』第5集	婦負郡編	明治39年(1906)	富山県立図書館
書籍	『八尾史談』	松本駒次郎編著	昭和2年(1927)	富山県立図書館
書籍	『富山県主催連合共進会記念帖』	富山県主催連合共進会編	大正3年(1914)	富山県立図書館
パンフレット	富山市大正座でのおわら節公演会パンフレット	主催 八尾町オワラ研究会	大正10年(1921)10月	富山市八尾おわら資料館
書簡	川崎順二宛封書	若柳吉三郎	昭和4年(1929)4月30日	富山市八尾おわら資料館
書簡 (印刷物)	各町の選出者宛文書(東京三越おわら公演への出場の可否を問う内容)	川崎順二	(昭和4年)5月29日	富山市八尾おわら資料館
原画	三越舞台の背景原画	不明	昭和4年(1929)か	富山市八尾おわら資料館

種 別	資料（作品）名	作 者	年 代	所 蔵
原 稿 (パネル)	「小原節踊ノ型」	若柳吉三郎	昭和5年(1930)3月1日	原本：富山市八尾おわら資料館
書 簡	川崎順二宛葉書	若柳吉三郎	昭和5年(1930)3月3日	富山市八尾おわら資料館
チ ラ シ	「春季おわら大会番組 於八尾劇場」		昭和6年(1931)3月8日	富山市八尾おわら資料館
チ ラ シ	懸賞おわら歌詞募集告知	富山県八尾町民謡おわら保存会	昭和14年(1939)5月か	富山市八尾おわら資料館
書 画 (巻 子)	「新男踊」「新女踊」	林 秋路		富山市八尾おわら資料館
音 響 (C D)	俚謡越中おわら節 発掘「おわら」SP レコードヴィンテージシリーズ 第1集	企画・編集・制作 宵まち・せんまい会議	平成14年(2002)	個人
冊 子 (和綴本)	「時局 民謡おわらぶし」	越中八尾民謡おわら保存会	昭和7年(1932)3月10日	富山市八尾おわら資料館
パ ン フ レ ッ ト	「体育民謡おわら踊」			富山市八尾おわら資料館
チ ラ シ	「納税宣伝おわら節」	越中八尾民謡おわら保存会歌詞部同人作		富山市八尾おわら資料館
衣 裳 類	女性用浴衣、帯、編笠			富山県民謡越中八尾おわら保存会
衣 裳 類	地方用浴衣、帯			富山県民謡越中八尾おわら保存会
写 真	各町のおわら踊りと衣裳	赤羽仁諭撮影		撮影者提供
衣 裳 類	青年男子用法被(福島)			福島おわら保存会
衣 裳 類	青年男子用法被(天満町)			天満町おわら保存会
衣 裳 類	青年男子用法被(今町)(新旧2着)			今町おわら保存会
衣 裳 類	青年男子用法被(上新町)			上新町おわら保存会
衣 裳 類	青年男子用法被(西町)			西町おわら保存会
衣 裳 類	青年男子用法被(東町)			東町おわら保存会
衣 裳 類	青年男子用法被(鏡町)			鏡町おわら保存会
衣 裳 類	青年男子用法被(下新町)			下新町おわら保存会
衣 裳 類	青年男子用法被(諏訪町)			諏訪町おわら保存会
衣 裳 類	青年男子用法被(西新町)			西新町おわら保存会
衣 裳 類	青年男子用法被(東新町)			東新町おわら保存会
衣 裳 類	早乙女用浴衣			東新町おわら保存会
楽 器	伯育男氏愛用の胡弓、弓、駒			個人
【第1章】 文士たちのまなざし				
写 真	城ヶ山にておわらを観賞する文士たち		昭和14年(1939)5月15日	富山市八尾おわら資料館
書 簡 (パネル)	川崎順二宛書簡	小杉放庵	昭和3年(1928)2月10日	原本：富山市八尾おわら資料館
原 稿 (パネル)	「八尾四季」	小杉放庵	昭和3年(1928)	原本：富山市八尾おわら資料館
原 稿 (パネル)	「八尾八景」	小杉放庵	庚午年十月	原本：富山市八尾おわら資料館
雑 誌	『ATELIER 美術雑誌 アトリエ』 4月号		昭和3年(1928)4月	富山市八尾おわら資料館
書 籍	『随筆 帰去来』	小杉放庵	昭和23年(1948)	当館
書 簡	川崎順二宛葉書	小川千甕	昭和5年(1930)2月18日	富山市八尾おわら資料館

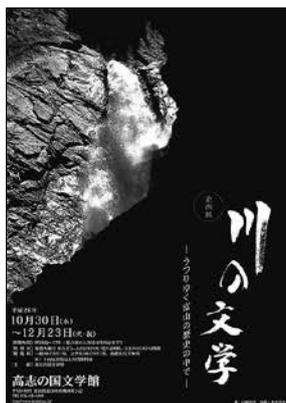
種別	資料(作品)名	作者	年代	所蔵
書画 (画帖)	「於和良踊」(千甕おわら踊 男舞)	小川千甕	昭和5年(1930)	富山市八尾おわら資料館
書簡	川崎順二宛封書	郷倉千靱	昭和8年(1933)7月	富山市八尾おわら資料館
原稿	「越中四季」4首、その他6首	郷倉千靱	昭和8年(1933)7月	富山市八尾おわら資料館
書画 (パネル)	「鱈腹帳」	翁久允、 室積徂春、他	昭和13~41年 (1938~1966)	富山市八尾おわら資料館
書簡	川崎順二宛封書	前田普羅	昭和4年(1929)10月24日	富山市八尾おわら資料館
書簡	川崎順二宛封書	前田普羅	昭和4年(1929)10月30日	富山市八尾おわら資料館
原稿	「小原節十五章」	前田普羅	昭和4年(1929)	富山市八尾おわら資料館
書籍	『二百十日』	二百十日会編	昭和5年(1930)	富山県立図書館
冊子 (和綴本)	「二百十日会 五月九日 久婦須川沿い吟句集」	前田普羅、橋爪巨籟、他	昭和18年(1943)5月9日	富山市八尾おわら資料館
書簡	川崎順二宛封書	翁久允	昭和11年(1936)9月14日	富山市八尾おわら資料館
原稿	「おわら民謡と八尾情緒」	翁久允	昭和15年(1940)	富山市八尾おわら資料館
雑誌	『高志人』3巻10号	翁久允編	昭和13年(1938)10月	富山市八尾おわら資料館
雑誌	『民謡音楽』2巻2号	主幹：野口雨情	昭和5年(1930)2月	富山市八尾おわら資料館
原稿	野口雨情歌詞「下ノ茗の四季」	川崎順二	昭和7年(1932)11月4日	富山市八尾おわら資料館
書簡	川崎順二宛封書	佐藤惣之助	昭和14年(1939)5月22日	富山市八尾おわら資料館
書簡	川崎順二宛封書	佐藤惣之助	昭和16年(1941)9月9日	富山市八尾おわら資料館
書簡	川崎順二宛封書	白鳥省吾	昭和27年(1952)1月14日	富山市八尾おわら資料館
原稿	「おわら節」考	白鳥省吾	昭和27年(1952)1月14日	富山市八尾おわら資料館
書簡	川崎順二宛葉書	町田嘉章	昭和27年(1952)7月31日	富山市八尾おわら資料館
書簡	川崎順二宛葉書	町田嘉章	昭和29年(1954)2月10日	富山市八尾おわら資料館
書籍	『日本民謡大観 中部篇』	日本放送協會編	昭和30年(1955)	当館
書簡	川崎順二宛封書	浦本政三郎	昭和27年(1952)9月8日	富山市八尾おわら資料館
書簡	川崎順二宛封書	浦本政三郎	昭和28年(1953)11月22日	富山市八尾おわら資料館
雑誌	『民謡』第1号~第3号 (表紙絵：林秋路)		昭和27~29年(1952~1954)	富山市八尾おわら資料館
チラシ	川田順講演会案内	越中八尾文化協会	昭和18年(1943)7月4日	富山市八尾おわら資料館
書簡	川崎順二宛封書	川田順	昭和18年(1943)7月12日	富山市八尾おわら資料館
書簡	川崎順二宛封書	川田順	昭和20年(1945)2月2日	富山市八尾おわら資料館
書簡	川崎順二宛封書	吉井勇	昭和20年(1945)1月24日	富山市八尾おわら資料館
書簡	川崎順二宛封書	吉井勇	昭和20年(1945)1月31日	富山市八尾おわら資料館
書籍	『歌集 流離抄』	吉井勇	昭和21年(1946)	当館
【第2章】織りなす情の世界				
写真	取手宿我孫子屋の場面での駒形茂兵衛(尾上菊五郎)とお薦(尾上梅幸)		昭和9年(1934)11月	国立劇場
雑誌	『中央公論』6月号(「一本刀土俵入」初出)	長谷川伸	昭和6年(1931)6月	富山県立図書館
書籍	『刺青奇偶 戯曲集』	長谷川伸	昭和7年(1932)	当館
書簡	川崎順二宛葉書	長谷川伸	昭和26年(1951)9月1日	富山市八尾おわら資料館
原稿	「一本刀土俵入のお薦」	長谷川伸(原稿本文は別筆)	昭和37年(1962)10月29日	富山市八尾おわら資料館
冊子	東京劇場 昭和6年7月『一本刀土俵入』興行筋書		昭和6年(1931)1月	当館
雑誌	『小説新潮』11月号(「風の柩」初出)	五木寛之	昭和46年(1971)11月	富山県立図書館
書籍	『鳩を撃つ』(「風の柩」収録)	五木寛之	昭和47年(1972)	当館

種 別	資料（作品）名	作 者	年 代	所 蔵
雑 誌	『小説新潮』6月号、7月号（「崖の上の二人」初出）	高橋 治	昭和59年（1984）6月～7月	富山県立図書館
書 籍	『風の盆恋歌』（サイン入）	高橋 治	昭和60年（1985）	個人
冊 子	脚本『風の盆恋歌』（二幕）	高橋治原作・脚色、福田善之演出	平成2年（1990）4月	富山市八尾おわら資料館
色 紙	おわら歌詞	高橋 治		個人
色 紙	俳句	高橋 治		個人
写 真	高橋治直筆の「風」の字が書かれた牛首袖の帯を着ておわらを踊る女性たち			個人
冊 子 (和綴本)	喫茶明日香 サイン帳	高橋 治 他		個人
イラスト (パネル内)	『月影バイベ』イラスト 4点	小玉ユキ	平成25～26年 (2013～2014)	小学館提供
原 画 (複製)	『月影バイベ』複製原画 24点	小玉ユキ	平成25～26年 (2013～2014)	小学館
下 絵	『月影バイベ』直筆線画 8点	小玉ユキ	平成25～26年 (2013～2014)	小学館
雑 誌	『月刊フラワーズ』 (「月影バイベ」掲載)	小玉ユキ 他	平成24年（2012）11月	当館
色 紙	『月影バイベ』キャラクターイラストとサイン	小玉ユキ	平成26年（2014）	当館
書 籍	『風の盆』	西澤裕子	昭和56年（1981）	当館
書 籍	『風の盆の町』	松浦とも子作、 福田岩緒絵	平成6年（1994）	当館
書 籍	『風の殺意・おわら風の盆』	西村京太郎	平成16年（2004）	当館
書 籍	『風の盆幻想』	内田康夫	平成17年（2005）	当館
書 籍	『愛の流刑地』上・下	渡辺淳一	平成18年（2006）	当館

(2)企画展「川の文学」

会 期／《前期》
 「川の文学
 ーうつりゆく富山の歴史の中でー」
 平成26年10月30日(金)～
 平成26年12月23日(祝)
 《後期》
 「川の文学 ^{うるわ} 美しきふるさと
 ー富山の川をめぐる文学と美術の交響ー」
 平成27年 1月28日(金)～
 平成27年 3月 2日(日)

主 催／高志の国文学館
 特別協力／富山県立近代美術館（後期のみ）
 担当学芸員／石王丸夏陽子
 観覧者数／2,626人
 出品点数／74点（前期）・64点（後期）
 印刷物／ポスターA1判（前期） チラシA4判



チラシ 前期



チラシ 後期

趣旨・総括

奈良時代、都から越中国に赴任した国守大伴家持は、越中国内の川の魅力、恵み、人々の営みを歌に詠み、そして万葉集に残した。家持が歌にした川はやがて歌枕となり、平安・鎌倉時代の歌人や文人たちによって歌い継がれてゆく。時代が下って江戸時代。富山の城下町を流れる神通川に架けられた船橋は、川舟を繋いだ芸術的ともいえる光景とその日本一の長さから、歌川広重の浮世絵にも描かれ、日本屈指の名所となった。明治時代、あまりにも急峻な流れの常願寺川は、富山を訪れた治水の世界的技術者が「これは川でなく滝だ」と驚いたという伝説を生んだ。そして昭和の高度経済成長期、秘境黒部峡谷に文明の光を差し込んだ黒部ダム建設。その前人未到の難工事は、黒部川という自然と人との戦いでもあった。

富山の川の歴史は富山の歴史と文化そのものであり、本展では、そうした川をめぐる富山の風土が生み出した文学作品を、次のように3つのコーナーを設けて展

示。川にゆかりのある文学作品をとおして、富山の自然や歴史、そこで暮らす人々の心と知恵を探究した。

- いき廻る流れー西部の川ー
 朝床に舟歌を聞く一射水川（小矢部川）
 ◎越中万葉歌
 あしつきを採る乙女ー雄神川（庄川）
 ◎越中万葉歌・山田和「瀑流」・三島由紀夫「山の魂」
- 川と共に生きるー中部の川ー
 自由自在の船橋ー神通川・松川
 ◎十返舎一九「金草鞋」・小寺菊子「河原の対面」
 イタイタイ病と戦った人々ー神通川
 ◎新田次郎「神通川」
 螢となる雪ーいたち川
 ◎宮本輝「螢川」
 怒り出したら手がつけられないー常願寺川
 ◎高島高「詩集北の貌」
- 氷雪の水、幽翠の谷ー東部の川ー
 落ちたぎつ雪解水ー早月川・片貝川
 ◎越中万葉歌
 谷いよいよ深く、数しらぬ瀬ー黒部川
 ◎木本正次「黒部の太陽」・松尾芭蕉「奥の細道」・冠松次郎「峰・瀨・ピング」

さらに後期展では、富山県立近代美術館蔵「富山を描く120景」から川にゆかりのある絵画11点と、富山県が制作した絵本『はじめての越中万葉』より川が詠まれた歌の挿絵を中心に大型パネル化して展示。今もなお芸術家の心を魅了し続けるふるさとの情景としての富山の川の魅力を紹介。富山で開催された日本ペンクラブ第31回「平和の日」の委員の方々にも見学いただいた。



初代歌川広重「越中 富山船橋」大型立版古



「越中四群村々組分絵図」拡大床面展示

□関連行事

①記念講演

開催日	講師	演題	受講者数
11月8日(土)	大田 弘氏 (株熊谷組 代表取締役会長)	“クロヨン”が遺したもの - 怯まず、諦めず、そして謙虚に -	78
11月30日(日)	山田 和氏 (作家、『瀑流』著者、講談社ノンフィクション賞・大宅壮一ノンフィクション賞受賞者)	「川」をめぐる物語	82

②文学講座

開催日	講師	演題	受講者数
12月13日(土)	立野 幸雄氏 (射水市大島絵本館長)	神通川の怪異 - 泉鏡花「蛇くひ」「黒百合」「鎧」を中心として -	80

③トークイベント

開催日	講師	演題	受講者数
11月2日(土)	佐竹 美保氏 (挿絵・装画家)	挿絵のこだわり	74

④フィールドワーク

開催日	内容	参加者数
11/22(土)	『崩れ』を巡って	21
11/29(土)	富山東部の川の歴史と文学	31

⑤富山県立近代美術館と高志の国文学館学芸員による特別フロアレクチャー

【日時】①2月1日(日)、②2月8日(日)

【参加者】①10名、②15名

⑥担当学芸員による展示解説

11月2日(日)、11月8日(土)、11月30日(日)、12月23日(火・祝)

□主な展示物

- 初代歌川広重「六十余州名所図会」より「越中 富山船橋」(浮世絵・当館蔵・江戸時代) 大型立版古
- 石黒信由「越中四群村々組分絵図」(絵図・高樹文庫蔵・射水市新湊博物館保管・江戸時代) 拡大床面展示
- 佐竹美保画『はじめての越中万葉』原画「射水川」(個人蔵)の大型ディスプレイ※前期のみ
- 五十嵐篤好「ふすしのや詠草」・「越中能登遠近山々見取り図」(富山県立図書館蔵・江戸時代) ※前期のみ
- 「常願寺川出水之略絵図」(富山県 [立山博物館] 蔵) ※前期のみ
- 田渕俊夫「流(十字峡)」(日本画・セレネ美術館蔵) ※前期のみ
- 遠藤彰子「もうひとつの空(黒部ダム)」・加山又造「雪のダム」など富山県立近代美術館蔵「富山を描く120景」より川にゆかりのある絵画11点。※後期のみ

(3)企画展「三禅定の旅 -立山・白山・富士山をめぐる-」

会 期／平成27年 3月13日(金)～5月11日(月)

《前期》

3月13日(金)～4月6日(日)

《後期》

4月15日(金)～5月11日(月)

主 催／高志の国文学館

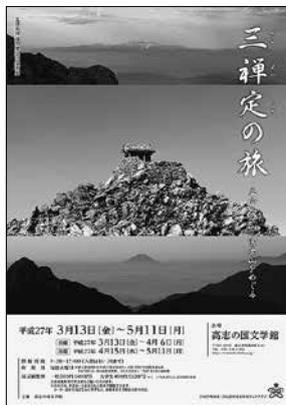
担当学芸員／福江 充

観 覧 者 数／585人(平成26年度中)

(全会期中は、4,150人)

出 品 点 数／81点

印 刷 物／ポスター A1判 チラシ A4判



チラシ 表



チラシ 裏

趣旨・総括

富山県の東部には「北アルプス」、「立山連峰」、「後立山連峰」と称される標高3000m級の急峻な峰々が連なっている。その峰々は四季折々、時々刻々とその姿を変容させては、見る人の心を魅了し、何かしらを県民に語りかけてきた心のよりどころである。

立山には、開山以前、劔岳山頂に銅錫杖頭を遺した山岳修行者らをはじめとして、開山以後も多くの修行者や参詣者が訪れている。また、江戸時代前期にはすでに、立山は富士山や白山とともに日本三霊山のひとつに数えられ、この三山を中心に沿線の寺社も巡礼する「三禅定」の旅が盛んに行われていた。

本展では、「三禅定」の旅を中心に、立山を旅する文学作品を題材として、その魅力とともに、山と対峙してきた人々のところを紹介した。

立山信仰の世界をわかりやく描いたものとして立山曼荼羅があるが、立山曼荼羅は、立山にかかわる山岳宗教、いわゆる「立山信仰」の内容が網羅的に描かれた掛軸式絵画のことである。画面には、立山の山岳景観を背景として、この曼荼羅の主題である「立山開山縁起」のいくつかの場面をはじめ、立山地獄の様子、

阿弥陀如来と諸菩薩の来迎場面、立山山麓・山中の名所や旧跡、芦峯寺布橋灌頂会の様子などが、マンダラのシンボルの日輪(太陽)・月輪(月)や参詣者などとともに、巧みな画面構成で描かれている。こうした立山曼荼羅は、立山信仰を護持し、各地で勧進布教をした立山衆徒(芦峯寺衆徒と岩峯寺衆徒)に絵解きされ、立山信仰の世界観や御利益が、庶民のみならず、徳川將軍夫人や江戸城大奥女中、幕府老中や諸大名など、近世身分制社会の最上級の人々にまで幅広く受け入れられた。今回は、この立山曼荼羅とともに、三山の信仰の世界を表した「白山曼荼羅」、「富士参詣曼荼羅」を一堂に展示した。

その他の主な展示物としては、江戸中期を代表する文人画家・池大雅の「三岳紀行図」がある。実際に三禅定を行った際の道中記で、立山などのスケッチのほか、様々な物の値段も書かれており、当時の旅行記としても貴重な資料である。また、三河国宝飯郡国府村(現在の愛知県豊川市)の平松英棟という人物が記した『三の山ふみ』(穂久邇文庫蔵)は、天平15年(1844)に43日間をかけて三禅定を行った際の旅の記録で今回が初公開となった。



展示風景



展示風景

□関連行事

①記念講演

開催日	講師	演題	受講者数
3月22日(日)	高橋 千劔破 氏 (歴史・文芸評論家)	立山・白山・富士山をめぐる旅の今昔	92

②記念文学講座

開催日	講師	演題	受講者数
4月29日(水・祝)	青柳 周一 氏 (滋賀大学経済学部教授)	江戸時代の旅行者と地域社会 - 富士山への旅を中心に -	112

③バスツアー

開催日	内容	参加者数
4月18日(土)	ゆかりの地見学ツアー (白山方面)	33
4月25日(土)	ゆかりの地見学ツアー (立山方面)	11

④担当学芸員による展示解説

3月21日(土)、3月28日(土)、4月25日(土)

□展示物一覧

資料名	所蔵	点数
(その1)		
『三岳紀行図』(宝暦10年)(パネル)	京都国立博物館蔵	8曲1隻
『三禪定之通』(延宝4年)※写真展示	鈴浜資料館蔵	1冊
『三ツの山巡』(文政6年)	国立国会図書館蔵	1冊
『廻国雑記』(『群書類従』第420冊所収)	国立国会図書館蔵	1冊
『回国雑記』	国立公文書館蔵	1冊
『三禪定道中覚帳』(享和元年)	個人蔵・武豊町歴史民俗資料館寄託資料	1冊
『道中みちやどのおぼえ』(文化元年)	個人蔵・武豊町歴史民俗資料館寄託資料	1冊
『三山道中記』(文政6年)	大府市歴史民俗資料館蔵	1冊
『三禪定道中記』(文政10年)	知多市歴史民俗博物館	1冊
『三禪定道中確』(明治13年)	知多市歴史民俗博物館	1冊
『三山道中日記』(明治40年)	知多市歴史民俗博物館	1冊
『三連場白山立山富士道中記』(明治4年)	個人蔵	1冊
『三禪定道中覚帳』	うのはな館(東浦町郷土資料館)蔵	1冊
『三禪定道中覚帳』(宝永7年)	うのはな館(東浦町郷土資料館)蔵	1冊

資料名	所 蔵	点 数
『道中賃』（安政2年）	うのはな館（東浦町郷土資料館）蔵	1冊
『三の山ふみ』（天保15年）	穂久邇文庫蔵	1冊
『旅日記』（明治11年～同13年）※写真展示	下北山村歴史民俗資料館蔵	1冊
『山禪定道中記』（嘉永2年）	西尾市幡豆歴史民俗資料館蔵	1冊
『一山旧記控』※写真展示	大仙坊蔵	1冊
『西方四十八願所縁起』（全5冊のうちの3冊目）	大谷大学図書館蔵	1冊
『三禪定見舞受納帳并二日光山江戸鎌倉八幡江野嶋弁天』（安政2年）	うのはな館（東浦町郷土資料館）蔵	1冊
『善光寺紀行』（『群書類従』第336冊所収）	国立国会図書館蔵	1冊
『北国紀行』	国立国会図書館蔵	1冊
『日本行脚文集7巻』（全7巻のうち第1巻）	国立国会図書館蔵	1冊
『善光寺紀行』（『片玉集』所収）	国立公文書館蔵	1冊
『北国紀行』	国立公文書館蔵	1冊
『橋三喜一宮巡詣記抜粋（下）』	国立公文書館蔵	1冊
『諸国道中金草鞋』	高志の国文学館蔵	1冊
『立山ノ記』『立山紀行』（『肯構泉達録15冊本所収』）	富山県立図書館蔵	1冊
『立山ノ記』『立山紀行』（『肯構泉達録3冊本所収』）	富山県立図書館蔵	1冊
『越中遊覧誌』（写本）	富山県立図書館蔵	1冊
『登立山記』	富山県立図書館蔵	1冊
『登立山記』	高岡市立中央図書館蔵	1冊
『立山禪定』（『元祖古今君ノ自叙傳家伝雜記』所収）	南砺市立中央図書館蔵	1冊
『海保青陵の書簡』	富山県〔立山博物館〕蔵	1巻
『立山道名所』	金沢市立玉川図書館近世史料館蔵	1巻
『老の路種（1巻と2巻で1冊）』	金沢市立玉川図書館近世史料館蔵	1冊
『大日本国法華経験記（享保2年版本）』	国立公文書館蔵	1冊
『大日本国法華経験記（享保2年版本）』 （全3冊のうちの3冊目〔巻下〕）	大谷大学図書館蔵	1冊
『今昔物語集（名古屋蓬左文庫本）』（レプリカ）	富山県〔立山博物館〕蔵	1冊
『地藏菩薩霊験記（貞享元年版本）』（全6冊のうちの3冊目〔巻6〕）	大谷大学図書館蔵	1冊
『三国伝記（明暦2年版本）』（全8冊のうちの6）	国立国会図書館蔵	1冊
『三国伝記（明暦2年版本）』（全6冊のうちの5冊目〔巻9〕）	大谷大学図書館蔵	1冊
（その2）		
『宝物集（元禄6年版本）』（全7冊のうちの2冊目〔巻2〕）	大谷大学図書館蔵	1冊
『宝物集（元禄6年版本）』（全7冊のうちの2冊目〔巻2〕）	富山市立図書館蔵	1冊
『類聚既験抄』（『続群書類従』所収）	国立公文書館蔵	1冊
『梁塵秘抄 巻第2、末（昭和2年写本）』（本・末の2冊のうちの1冊）	国立国会図書館蔵	1冊
『伊呂波字類抄10巻』（10冊10巻のうち第4巻）	国立国会図書館蔵	1冊
『伊呂波字類抄』	国立公文書館蔵	1冊
『謡曲本 善知鳥』	富山県〔立山博物館〕蔵	1冊
『神道集（天理大学図書館本）』（レプリカ）	富山県〔立山博物館〕蔵	1冊
『立山手引草』	個人蔵	1冊

資料名	所 蔵	点 数
『芦峯姥堂大縁起』（『立山大縁起 三卷（芦峯寺日光坊本）』所収） （レプリカ）	富山県〔立山博物館〕蔵	1巻
『立山略縁起（芦峯寺宝泉坊本）』	富山県〔立山博物館〕蔵	1冊
『立山縁起（芦峯寺宝泉坊本）』	富山県〔立山博物館〕蔵	1冊
『立山略縁起（芦峯寺本）』	富山県立図書館蔵	1冊
『御姥尊縁起（芦峯寺宝伝坊本）』※写真展示	芦峯寺一山会蔵	1冊
『立山御姥尊布橋大灌頂勸進記（芦峯寺善道坊本）（天保2年）』	富山県〔立山博物館〕蔵	1冊
『立山御姥尊布橋施主帳 立山御姥尊別当大仙坊』（寛政7年）』	大仙坊蔵・富山県〔立山博物館〕寄託資料	1冊
『立山小縁起（岩峯寺延命院本）』（安政5年）』	個人蔵	1冊
『立山小縁起（岩峯寺雄山神社前立社壇本）』	岩峯寺雄山神社前立社壇蔵	1冊
『紙本墨書白山縁起』※写真展示	白山比咩神社蔵（国指定重要文化財）	1冊
『紙本墨書白山宮莊嚴講中記録』※写真展示	白山比咩神社蔵（国指定重要文化財）	1冊
『富士山大縁起』（永禄3年）写本	富士市立博物館蔵	1冊
『富士山大縁起』（元禄10年）写本	富士市立博物館蔵	1巻
『富士山縁起状』	国立公文書館蔵	1冊
『立山曼荼羅立山博物館A本』	富山県〔立山博物館〕蔵	2幅1対
『立山曼荼羅最勝寺本』（レプリカ）』	富山県〔立山博物館〕蔵	1幅
『立山曼荼羅吉祥坊本』（レプリカ）』	富山県〔立山博物館〕蔵	4幅1対
『立山曼荼羅坪井家A本』	個人蔵・富山県〔立山博物館〕寄託資料	4幅1対
『立山曼荼羅大仙坊A本』	大仙坊蔵	4幅1対
『立山曼荼羅大仙坊B本』	大仙坊蔵	4幅1対
『立山曼荼羅筒井家本』	個人蔵	4幅1対
『立山曼荼羅玉林坊本』	個人蔵	4幅1対
『立山曼荼羅最勝寺本』	最勝寺蔵	1幅
『絹本著色白山曼荼羅図』	能美市蔵・石川県立美術館寄託資料 （石川県指定文化財）	3幅1対
『紙本淡彩加賀国白嶺之図』	金沢立玉川図書館近世史料館蔵	1点
『紙本白描白山曼荼羅』	那谷寺蔵	1点
『白山曼荼羅（長滝白山神社本）』（レプリカ）』	若宮修古館蔵	1幅
『紙本著色富士参詣曼荼羅図』	奈良県矢田原第三農家組合蔵・奈良国立博物館寄託資料（奈良市指定文化財）	1幅
『絹本著色富士曼荼羅図（狩野元信印）』（レプリカ）』	富士山本宮浅間大社蔵	1幅

全81作品（冊子61点、卷子4点、絵図2点、掛幅13点、屏風1点）

□関連行事

記念講演

開催日	講師	演題	参加者数
10月12日(日)	井上 洋子氏 (福岡国際大学名誉教授)	夢二と白蓮－装幀が結ぶ美の世界－	130

□展示物一覧

(A：朝日町立ふるさと美術館 Y：金沢湯涌夢二館 K：高志の国文学館)

作品名	制作年	仕様	所蔵	備考
『踏絵』	大正4年	印刷	K	柳原白蓮の歌集(平成20年復刻版)
『幻の華』	大正8年	印刷	K	同上
『指臺外道』	大正9年	印刷	K	柳原白蓮の戯曲
女十題「朝の光へ」	昭和初期	版画	A	様々な女性を描写(長崎で制作)
女十題「産衣」	昭和初期	版画	A	同上
女十題「北方の冬」	昭和初期	版画	A	同上
女十題「逢状」	昭和初期	版画	A	同上
女十題「舞姫」	昭和初期	版画	A	同上
女十題「泣き黒子」	昭和初期	版画	A	同上
女十題「ネルの感触」	昭和初期	版画	A	同上
女十題「三味線堀」	昭和初期	版画	A	同上
女十題「黒猫」	昭和初期	版画	A	同上
女十題「木場の娘」	昭和初期	版画	A	同上
「宵待草」	大正12年	印刷	A	セノオ楽譜表紙
「宵待草」	昭和2年	印刷	A	同上
「ゴンドラの唄」	大正5年	印刷	A	同上
「椿姫」	大正13年	印刷	A	同上
「スペインの小夜曲」	大正13年	印刷	A	同上
「アベマリア」	大正9年	印刷	A	同上
「5月号 mai」	大正15年	版画	A	婦人グラフ挿画
「7月号七夕」	昭和1年	版画	A	同上
「8月号花火」	大正13年	版画	A	同上
「12月号雪の国」	大正13年	版画	A	同上
『山へよする』	大正8年	印刷	A	自著装幀本
挿画「桃樹園」	大正8年	印刷	A	『山へよする』挿画
挿画「VIRGIN MARY」	大正8年	印刷	A	同上
挿画「KAWAZIN」	大正8年	印刷	A	同上
挿画「BEPRU」	大正8年	印刷	A	同上
挿画「果實編」	大正8年	印刷	A	同上
『春の巻』	明治42年	印刷	A	画集
『秋の巻』	明治43年	印刷	A	同上
『冬の巻』	明治43年	印刷	A	同上
『東京紅燈集』	大正5年	印刷	A	吉井勇の歌集
『祇園歌集』	大正4年	印刷	A	同上
『女の生命 前編』	大正8年	印刷	A	同上
『女の生命 後編』	大正8年	印刷	A	同上
「百合と婦人」	不明	水彩画	A	絵画
「春の雪」	不明	水彩画	A	同上
絵葉書	明43～大9年	版画	A	つるや書房刊行絵葉書(34枚)
夢二浪漫十題「欲衣の女」	昭和62年	版画	A	中右英児によるアレンジ版画
夢二浪漫十題「舞奴」	昭和62年	版画	A	同上
夢二浪漫十題「黒猫令嬢」	昭和62年	版画	A	同上
夢二浪漫十題「若草の少女」	昭和62年	版画	A	同上
夢二浪漫十題「晩夏のひと」	昭和62年	版画	A	同上
夢二浪漫十題「風の女」	昭和62年	版画	A	同上
夢二浪漫十題「鏡の女」	昭和62年	版画	A	同上
夢二浪漫十題「夜の女」	昭和62年	版画	A	同上
夢二浪漫十題「銀座モガ」	昭和62年	版画	A	同上
夢二浪漫十題「トランプ占い」	昭和62年	版画	A	同上
『1915 Toyama 画帖』	大正4年	スケッチ	A	富山滞在中のスケッチ帖
「1915 Toyama 画帖」	大正4年	スケッチ	A	同上(19枚)
他万喜と子供たちの写真	明治38年	写真	Y	富山市内で撮影
夢二デザインの古志の松原	原作は大正4年	印刷	個人	岩瀬名物飛び団子の包装紙

(2)ギャラリー展「冷光文庫」展－富山におり立った「雪の女王」を訪ねて－

会 期／平成27年 1月 7日 困～ 1月26日 圓
主 催／高志の国文学館
協 力／射水市大島絵本館、富山県立図書館、
大井義博、大村歌子、吉田和子

特 別 協 力／北日本新聞社
後 援／デンマーク大使館
担 当／守内紀子

観 覧 者 数／1,700人

出 品 点 数／43点

印 刷 物／チラシ A4判

佐竹美保氏 描き下ろし画 アンデルセン
「雪の女王」ハガキ判（5種類）

資料（大井冷光作『花売少年』他）

A3判

資料（「アンデルセンの故郷デンマーク・
オーデンセ」）A3判

趣旨・総括

アンデルセン童話の魅力に着目し、収集した大井冷光（現富山市水橋生）。生誕130年にあたり、冷光の心の軌跡をたどった。

父との思い出もなく、幼くして母を亡くした冷光は、寂しさの中で、自らを優しく抱きしめ、支え、勇気づけてくれる保護者のような存在を求め続ける。特に父親に対する思慕の情が強く、冷光の力を認め、受け入れてくれるような年長の男性、巖谷小波、久留島武彦等に出会うと、彼らに認めてもらおうと自らを奮い立たせ、さらには彼らが賞賛するアンデルセンへと向かっていく。『越中お伽噺第一編 走影の池・更々越』は、「歓迎の記念として十五年前より慕えまつる巖谷小波先生に、このつたなき一冊冊子をささげたてまつる」の巻頭文から始まる。この冊子は明治42年5月23日に発刊されているが、その日に巖谷が富山を訪れている。また、『越中お伽噺第二編 佐伯有頼・コロリン爺』には、冷光と巖谷が並んで立っている写真を入れており、その傾倒ぶりが伺える。明治43年久留島を頼って上京、『少年』『少女』の編集に携わり多くの作品を発表するとともに、全国を巡回し自作の童話を口演する。

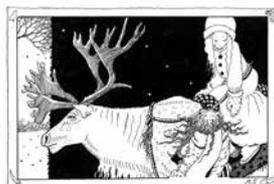
冷光の「童話」と称される話は、大正7年の『赤い鳥』創刊頃から盛んになる新しい型の童話と比べると、はるかに「お伽噺」的要素が強い。冷光は新しい型の「童話」の波に乗ろうとアンデルセン童話に着目したが、その前に急逝した。旧蔵書等を収めた「冷光文庫」（富山



チラシ 表



チラシ 裏



佐竹美保氏 描き下ろし画
アンデルセン「雪の女王」
カード5種類



青を基調とした展示風景



展示パネル

県立図書館蔵）321冊のうち、アンデルセン関係の図書は35冊を占める。大井冷光自筆のノート『Andersen's life』全2冊では、アンデルセンがザクセン＝ワイマール＝アイゼナハ大公やチャールズ・ディケン

ズ等とやり取りした書簡集『Hans Christian Andersen's Correspondence』（Dean & Son 発行、1891年刊）、及びアンデルセンの自伝『The Story of my Life』（『Stories of the household』G.Rutledge 発行、1866年刊所収）を書写している。また、『Fairy tales and stories』、『Fairy tales,stories and legends』には、「大正八年一月十日 アンダッセン社組織準備の為 帝国ホテル丁抹公使 伯を訪ね約一時間 会談諸種便宜を

得」「時事新報夕刊紙上ニ於て アンダセン協会計画記事発表」等、冷光がアンデルセン協会設立に尽力していたことが伺える手書きのメモが残る。

富山市では1785名もの生徒を前に口演した大井冷光（富山日報、大正4年5月25日第3面より）。会期中にはその彼にちなんで、朗読会等、声という「音」に思いをのせて相手に伝える活動を数多く展開した。

□関連行事

①口演

開催日	演者	内容	参加者数
1月7日(水)	西 小百合氏 (射水市大島絵本館 企画係長)	大井冷光作『佐伯有頼』等の口演	30
1月18日(日)			30

②室内楽フェスティバル

開催日	講師	内容	参加者数
1月10日(土)	山口 景子氏 (作曲家・編曲家)	『Let It Go～ディズニー映画「アナと雪の女王」主題歌～弦楽四重奏』(山口景子編曲)の演奏、トーク	90

③アフレコ体験－思い、伝える！つながる！－

開催日	講師	内容	参加者数
1月12日(月・祝)	代々木アニメーション学院金沢校	アンデルセン作『雪だるま』朗読、アフレコ	①午前39
			②午後24

④朗読フェスティバル

開催日	内容	参加者数
1月17日(土)	第67回富山県少年少女自作童話大会優秀賞受賞者による口演、プロアナウンサーによるアンデルセン童話の朗読	50

□主な展示物（富山県立図書館蔵「冷光文庫」より）

①大井冷光著作物

『母のお伽噺 だりあの巻』、『母のお伽噺 ぷりむらの巻』、『血染の国旗』等

②巖谷小波・久留島武彦・蘆屋蘆村著作物

『桃太郎主義の教育』、『久留島お伽講壇』、『旧約こども聖書』等

③ Hans Christian Andersen 著作物

『Fairy tales』、『Fairy tales and stories』、『Fairy tales,stories and legends』等

④ Hans Christian Andersen 著作物訳本

『アンデルセン御伽噺』（長田幹彦訳）、『教育お伽噺』（和田垣謙三、星野久成訳）等

⑤切り出しパネル240cm×160cm（Hans Christian Andersen 著『Fairy tales』（富山県立図書館蔵「冷光文庫」）より、William Heath Robinson 作 挿絵「雪の女王」）

2. 資料概況

□資料数

		印刷物 (書籍・雑誌・冊子等)	自筆資料				美術品	写真	映像・音響資料	調度品・愛用品	その他	計
			原稿	原画	書簡	色紙・短冊・軸・一枚もの、その他						
～H25年度	購入	11,037	33	4	40	22	3	5	192		108	11,444
	寄贈	18,756	219	59	743	1,060	108	102	61	18	136	21,262
	製作	12	8	10	6	11	2	1			3	53
	小計 (A)	29,805	260	73	789	1,093	113	108	253	18	247	32,759
H26年度	購入	983	2	5	23	3	1		161	1	5	1,184
	寄贈	1,526	30		29	37		16	81	4	112	1,835
	製作		2							1		3
	小計 (B)	2,509	34	5	52	40	1	16	242	6	117	3,022
～H25+H26合計(A)+(B)		32,314	294	78	841	1,133	114	124	495	24	364	35,781

□おもな新収蔵資料

寄 贈

作者等	資料名
パーシヴァル・ローウェル	NOTO AN UNEXPLORED CORNER OF JAPAN (能登 日本の未踏査地域)
司馬遼太郎	直筆墨書 (額装)
大村正次	千石喜久夫人宛書簡 (昭和5年2月6日付)
千石喜久	原稿「米騒動」 1枚
棟方志功	個人宛葉書 (昭和29年12月2日消印)
角川照子	句稿「吉野拾遺」3枚、「樞の実」4枚、「越の藤」2枚など
本木克英	「釣りバカ日誌13」黒部ロケ スタッフ用ジャンパー
久世光彦	個人宛葉書 (平成6年7月20日消印)
角川源義編	雑誌『短歌』創刊号 (昭和29年1月、角川書店)
山根青鬼	干支色紙
小玉ユキ	「月影バイベ」イラスト・サイン色紙

購 入

作者等	資料名
堀田善衛	原稿「故郷」(400字詰原稿用紙15枚)
堀田善衛・深尾須磨子	色紙「花のいのち長かれ 傷をうくることなかれ」「竟に山に聴き 水に掬び」(墨筆表裏1枚)
久世光彦	色紙「悪い夢でも 夢はゆめ 平成九年秋 久世光彦」
金尾梅の門	句幅「初日さし流木は起ちあがらむと」
前田普羅	下澤木鉢郎宛葉書 (昭和13年1月6日付)
尾島 (小寺) 菊子	『少女の一念』(金港堂書籍、明治41年)
横山源之助	『凡人非凡人』(新潮社、明治44年)
冠 松次郎	『峰・溪々』(書物展望社、昭和23年)
久世光彦	「匣の中のクリスマス」「螢子I」など(『赤門詩人』1～9号、赤門詩人会、昭和33～35年)
大井冷光	「湖水の薔薇」「千人結び」(『少女』第80号、時事新報社、大正8年7月)
宮本 輝	『川 三部作 (泥の河、螢川、道頓堀川)』(筑摩書房、昭和60年)
佐竹美保	原画「雪の女王」 5点
森田りえ子	越中万葉絵画「春の苑」(紙本彩色・額装、50号)

3. 教育・普及事業

□観桜の集い2014 in 高志の国文学館

開催日／平成26年4月13日回

会場／高志の国文学館万葉の庭（特設ステージ）

参加者／200名

平成26年4月13日（日）、松川の桜が満開を迎える中、当館の万葉の庭特設ステージにて「観桜の集い2014 in 高志の国文学館」を開催した。富山県洋舞協会によるダンスで幕を開けた第一部では、県民の皆さんが、万葉歌や自作の短歌、詩などを朗唱した。

第二部では、黒川真理氏による箏の演奏、日本舞踊協会による舞に続き、ヨーロッパで活躍中のテノール歌手、澤武紀行氏（射水市出身）が「さくらさくら」などを独唱した。

その後行われた特別朗唱では、「万葉集全20巻朗唱の会にいざなう会」の玉井晶夫会長が、二胡の演奏にあわせて即興で雨晴海岸の絵を描き、大伴家持の歌を朗唱した。

馬並めて いざうち行かな 洪谿（しぶたに）の

清き磯廻（いそみ）に 寄する波見に（巻17・3954）「洪谿の磯廻」とは、現在の雨晴海岸のこと。

この雨晴海岸から望む有磯海（女岩）は、松尾芭蕉が「わせの香や分入右は有磯海」の句に取り込んだことでも知られ、先般、「おくのほそ道の風景地」として国の名勝に指定された。



□棟方志功未公開作品特別展示

開催日／平成26年4月26日回～5月12日回

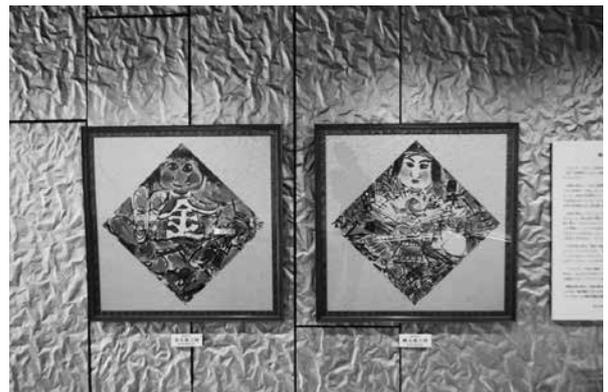
会場／高志の国文学館エントランスロビー

県内在住の美術愛好家から、棟方志功が描いた風絵（2冊1対）を寄託いただいたのを記念して、特別展示を開催した。この作品は、板画家・棟方志功が富山県福光町に疎開していた昭和22年（1947）頃、寄託者の祖母が孫のためにと棟方に制作を依頼したもので、それぞれの箱書には「桃太郎之図」「金太郎之図」と題字が墨書され、落款がされている。また箱裏には「法眼棟方志功真海自題」（法眼・棟方志功真海、自ら題す）と墨書されている。棟方志功は、著書『板極道』（中央公論社、1964年）のなかで、次のように述べている。

「そのころ、わたくしが惹かれたものに、風の絵がありました。

県下（青森県下）では、青森の風と弘前の風と五所川原の風の三つの流れがあったのです。

（中略）



青森の風の流れ、弘前の風の流れ、五所川原の風の流れ、それぞれにわたくしのころに、絵が描けて行ったのでした。いまでもこの風絵が、からだの中に入っていて、わたくしの絵や板画の魂を入れているのには、かわりありません。」

風揚げが盛んな青森県出身の棟方にとって、風絵は特別な意味を持つものであり、今回の作品からも棟方のエネルギーが伝わってくる。

□映画「春を背負って」パネル展

開催日／平成26年6月5日(困)～7月21日(固)

会場／高志の国文学館エントランスロビー

平成26年6月14日(土)公開の木村大作監督の映画、「春を背負って」のパネル展を開催した。映画のワンシーンなどを捉えた写真パネルのほか、監督と出演者のサイン、撮影台本、撮影に使われた衣装なども展示。さらに、今回のパネル展にあわせて特別にお借りした、映画のメイキング映像を無料上映。過酷なロケの様や随所に見られる木村監督のこだわりを体感できるものとなった。

6月8日(日)には、富山県庁前にて、木村監督と、松山ケンイチさん、蒼井優さん、豊川悦司さんの主要

キャスト3名が出演する富山凱旋プレミアトークイベントが開催された。



□高志プロジェクト

開催日／平成26年7月6日(回)

会場／高志の国文学館研修室101

平成25年度より、富山県ゆかりの文学や郷土の研究を行うグループを公募・選考し、優れた団体に奨励金を交付する「高志プロジェクト」が始動した。これは、富山県の風土や歴史、文化をより深く調査・研究し、発信することにより、郷土の文化や魅力を再認識し、次世代へ継承することを目的としたもので、平成26年度には次の3団体が選ばれ、認定証交付式が実施された。あわせて前年度認定団体による研究成果発表も行われた。



研究テーマ	団体名 代表者(職)
富山の女性文学の基礎的研究	富山女性文学研究会 金子 幸代 (富山大学教授)
蔵巨水主宰の俳句結社「くらげ社」の研究 －富山県への定着と発展－	富山俳句研究会 大西 紀夫 (富山短期大学名誉教授)
高岡漆器史・工人の系譜	伝統工芸高岡漆器協同組合 氏家 史貴 (伝統工芸高岡漆器協同組合理事長)

□第1回ノベル・まんが教室

開催日／平成26年7月30日(水)～7月31日(木)

会場／高志の国文学館研修室101

ふるさと富山から、世界を舞台に活躍するクリエイターを生み出したい。そんな願いから代々木アニメーション学院より講師をお招きし、県内の中学生・高校生を対象にノベル・まんが教室を開催した。



教室	コース	開催日・参加者数	
まんが教室	入門編	7月30日(水)	①午前35
	応用編		②午後20
ノベル教室	入門編	7月31日(木)	①午前11
	応用編		②午後8

□読書感想文サポート講座

開催日／平成26年8月6日(水)～8月8日(金)

会場／高志の国文学館研修室101

「原稿用紙がうまらない。」「何を書けばいいかわからない。」といった声にお応えするため、小学生・中学生・高校生を対象に、読者感想文の書き方講座を開催した。



講座	講師	対象図書	開催日・参加者数	
小学校3・4年生向け	東部教育事務所 主任指導主事 上島 陽一郎氏	小沢昭巳『とべないホテル』	8月8日(金)	①午前33
				②午後35
中学生向け	西部教育事務所 指導主事 砂土居 良江氏	津田文平『漂民次郎吉 太平洋を越えた北前船の男たち』	8月6日(水)	①午前1
				②午後12
高校生向け	魚津工業高等学校 教諭 光林 明子氏	辺見じゅん『花子のくのにの歳時記』	8月7日(木)	①午前5
				②午後4

□平成26年度 文学講座

平成26年度の文学講座は、「大学連携シリーズ」、「ゆかりの文学者シリーズ（前期・後期）」及び「ふるさとの歴史と文学入門講座（富山県郷土史会・富山県）」を開催した。

大学連携シリーズ

開催日	講師	演題	受講者数
6月8日(日)	次山 淳氏 (富山大学人文学部教授)	天平の絵馬を読み解く	41
6月22日(日)	川上 陽介氏 (富山県立大学工学部准教授)	近世日本における中国笑話の受容について	40
7月20日(日)	水野真理子氏 (富山大学医学部准教授)	日系アメリカ人の文学活動 - 強制収容所における文学	51
8月3日(日)	近藤 周吾氏 (富山高等専門学校准教授)	文学にとって〈ふるさと〉とは何か - 須山ユキエ論 -	43

ゆかりの文学者シリーズ：前期

開催日	講師	演題	受講者数
8月31日(日)	中坪 達哉氏 (富山県俳句連盟会長)	前田普羅 その求道の詩魂	120
9月28日(日)	大貫 徹氏 (名古屋工業大学大学院教授)	佐伯彰一 その人と仕事 - 「帰還する旅」を巡って-	66
10月19日(日)	大村 歌子氏 (大井冷光を語る会代表)	童話作家 大井冷光ものがたり	78

ゆかりの文学者シリーズ：後期

開催日	講師	演題	受講者数
10月12日(日)	井上 洋子氏 (福岡国際大学名誉教授)	夢二と白蓮 - 装幀が結ぶ美の世界 -	130
11月16日(日)	マリ・クリスティーン氏 (富山大学客員特別研究員)	Hearn の五高時代の講義ノート新発見	74
12月7日(日)	八木 光昭氏 (聖徳大学文学部教授)	堀田文学の基底「乱世」	84
1月11日(日)		堀田文学の基底「上海」	61

ふるさとの歴史と文学入門講座（富山県郷土史会・富山県）

開催日	講師	演題	受講者数
5月20日(火)	竹島 慎二氏 (富山県近代史研究会会長)	富山の地名について	80
7月11日(金)	岩倉 高子氏 (女優)	ふるさとを愛した父 岩倉政治	70
9月18日(木)	新谷 秀夫氏 (高岡市万葉歴史館学芸課長)	作られた萬葉歌枕 - 『おくのほそ道』の「有機海」をめぐる-	100

□朗読と音楽の夕べ

9月から11月にかけて、県内アナウンサーによる朗読と音楽演奏を組み合わせたイベント「朗読と音楽の夕べ」を開催した。第5回目の11月16日は初めての日曜日開催ということもあり、220人もの聴衆が集まった。

チューリップテレビの富並望美アナウンサーによる高橋治『風の盆恋歌』の朗読では、富山県民謡越中八尾おわら保存会による本場の演奏と踊りが披露された。また、イベント始まって以来初めての男性アナウンサーとして、北日本放送の上野透アナウンサーが、富山県ゆかりの芥川賞作家・柏原兵三の『長い道』を朗読した。



開催日	朗読者(所属) 演奏者(楽器)	作品	観覧者数
9月12日(金)	富並 望美(チューリップテレビ) 富山県民謡越中八尾おわら保存会 (三味線、胡弓、太鼓)	高橋治『風の盆恋歌』	120
9月26日(金)	上野 透(北日本放送) 井上 貴信(チェロ) 藤井亜里沙(ピアノ)	柏原兵三『長い道』	112
10月10日(金)	谷藤 博美(富山テレビ放送) 戸島 園恵(ピアノ)	レオ・バスカーリア 『葉っぱのフレディー-いのちの旅-』	110
10月24日(金)	船岡未沙希(FMとやま) 渋谷 優花(ヴァイオリン) 中野 悠里(ピアノ)	木崎さと子『青桐』	108
11月16日(日)	小西 政親(NHK富山放送局) 太田 豊(おりん、琵琶) 細川 文(チェロ)	小泉八雲『耳なし芳一』	220

□「高志の国文学」情景作品コンクール入選作品展示

開催日/平成26年11月26日(金)～12月27日(日)

会場/高志の国文学館エントランスロビー

このコンクールは、中学生・高校生が、先人の喜び、悲しみ、悩み、感動などを伝える「高志の国文学」に触れ、感じた心情や情景を文芸や美術、写真で表現したもの。

今回は、小学校5、6年生による「ふるさとの優れた先人に学ぶ」作文コンクールの受賞作品もあわせて展示した。



□映画「アオハライド」パネル展

開催日／平成26年12月10日(土)～平成27年5月7日(木)

会場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

平成26年12月13日(土)公開の映画「アオハライド」。800万部突破の大ベストセラーコミックスが映画化されたもので、富山県内各地でロケが行われた。文学館のライブラリーコーナーにおいて、映画で使われた小道具や出演者のサイン色紙などを展示。主演の本田翼さん、東出昌大さんらのサインのほか、原作者の咲坂伊緒先生の直筆イラストが入ったオレンジ色のロッカーも展示され、ライブラリーコーナーには「アオハライド」全巻が揃えられた。



□室内楽フェスティバル

開催日／平成27年1月10日(日)

会場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

出演／新井紗央理 (ヴァイオリン)

嶋 志保子 (ヴァイオリン)

松山加奈恵 (ピオラ)

井上 貴信 (チェロ)

参加者／90名

ギャラリー展「冷光文庫」展-富山におり立った「雪の女王」を訪ねて-の関連イベントとして、室内楽フェスティバルを開催。このイベントでは、高岡市出身の作曲家・山口景子氏が編曲を手掛けた『Let It Go』をはじめ、NHK 朝の連続テレビ小説「マッサン」や「花子とアン」の主題歌などを弦楽四重奏で披露。

特別ゲストとして山口氏ご本人にもお越しいただき、日ごろの作曲活動や編曲を行う際の苦労話などを伺った。



□アフレコ体験教室

開催日／平成27年1月12日(日)・㊿

会場／高志の国文学館研修室101

参加者／63名

ギャラリー展「冷光文庫」展-富山におり立った「雪の女王」を訪ねて-の関連イベントとして、アフレコ体験教室を開催。かつて全国を回って童話の読み聞かせを行った大井冷光にちなみ、言葉を声に出して伝える大切さを感じてもらおうと、初めて開催したもの。まずは、全員で声を出して読む練習。代々木アニメーション学院金沢校からお招きした先生方からアドバイスを受けながら、アンデルセンの『雪だるま』を朗読し、その後アフレコに挑戦した。



□朗読フェスティバル

開催日／平成27年1月17日 日

会場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

参加者／50名

ギャラリー展「冷光文庫」展－富山におり立った「雪の女王」を訪ねて－の関連イベントとして、朗読フェスティバルを開催。

平成26年11月に行われた第67回富山県少年少女自作童話大会で大井冷光賞（最優秀賞）を受賞した蔵谷晴さん（富山市立杉原小学校5年）をはじめ、優秀賞の前田小春さん（滑川市立西部小学校6年）、優良賞の屋敷萌々香さん（黒部市立たかせ小学校5年）の3

名による発表と、プロのアナウンサーによる朗読が行われた。



□高校生による朗読会

開催日／平成27年1月24日 日～1月25日 日

会場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

出演／県立富山中部高等学校放送部

県立魚津高等学校放送部

県立桜井高等学校放送部

県立砺波高等学校放送部

県立富山高等学校放送部

参加者／190名

高校生に日頃の練習の成果を発表する場を提供するとともに、幅広い年代の方々に朗読の魅力を感じていただくため、昨年度から開催しており、今回は計5校の高校の放送部が参加。

中西館長から、「本来、言葉には「視覚性（文字）」と「音声性」の二つの要素がある。だんだんと「音声

性」が失われつつあるが、朗読という行為を通して本当の「言葉」に出会うことができた」と全体の講評があり、『雪のかえりみち』（藤原一枝 作）と『鉄道員』（浅田次郎 作）を朗読した富山高等学校放送部の皆さんに館長賞が贈呈された。



□書道パフォーマンス「自然を描く－書のみしさを求めて－」

開催日／平成27年1月5日 日、3月7日 日

会場／高志の国文学館エントランスロビー

伝統文化としての書の本質を磨きながら、新しい書の魅力を探求し、新たな文化を創造することを目指して、県立高校書道部による書道パフォーマンスを開催した。第2回では、作品の展示に併せて、酒井和佳子氏（池坊）による、豪農の館内山邸の梅枝を使用した生花展示も行った。



	開催日	出演	テーマ及び作品	参加者数
第1回	1月5日(月)	県立呉羽高等学校書道部	「雪」 自作の詩	50
第2回	3月7日(土)	県立富山高等学校書道部	「花」 御題小謡『日の本』（中西進 作）	82

4. 高志の国文学館友の会

高志の国文学館友の会は、文学館の開館に先立つ平成24年6月18日、「文学館の事業に基盤において、ふるさと文学を中心とする幅広い芸術文化に関する活動を通して、多くの人々が生涯学習の機会を持ち、会員相互に親睦を深めるとともに、文学館と連携し、文学館の活動を広く支援していくことを目的」として設立された。

平成26年度は、富山近美友の会との共催による中西進館長特別講演会「遙かなるものーポール・デルヴォーの世界」をはじめ、企画展「風の盆」関連の記念トーク「風吹ジュン×国井雅比古」や日本ペンクラブ第31回「平和の日」富山の集いへの優先参加などを行った。

自主事業としては、研修旅行「秋の古都を訪ねて～京都御所一般公開と正倉院展」、富山県出身の挿絵・装画家、佐竹美保氏によるトークイベント「挿絵のこだわり」&茶話会、昨年度に引き続きラ・ベトラ・ダ・オチアイの落合務シェフの料理&トークショーなどを開催した。

会員数は、944名となった。

会員数

一般会員	798	学生会員	1
法人会員	18		
5年会員（個人）	100	5年会員（法人）	2
賛助会員（個人）	23	賛助会員（法人）	2

会費

一般会員	2,000円
学生会員	1,000円
法人会員	20,000円
5年会員（個）	10,000円
5年会員（法）	100,000円
賛助会員	一口 10,000円

特典

- ・文学館ニュースや各種行事案内の配布
- ・文学館及び友の会主催行事への優先参加
- ・文学館が発行する図録等の割引購入
- ・文学館内レストランの飲み物代優待
- ・文学館内レストランのランチ予約優待

平成26年度事業

- ・各種行事への優先参加

- ・落合シェフ料理&トークショー

5月24日(土) 参加者91名

9月13日(土) 参加者122名

2月21日(土) 参加者131名

- ・研修旅行「秋の古都を訪ねて～京都御所一般公開と正倉院展」

10月31日(金)～11月1日(土) 参加者29名

京都御所、源氏物語ミュージアム、奈良国立博物館「正倉院展」、薬師寺見学



- ・佐竹美保氏トークイベント「挿絵のこだわり」&茶話会
11月2日(日)

【トークイベント】

参加者 74名 研修室101



【茶話会】

参加者 17名 ラ・ベトラ・ダ・オチアイ



理事会

7月7日(月)

Ⅲ 管理・運営

1. 利用状況

(1)入館者数・観覧者数

区 分	会 期	日 数 (a)	入館者	企画展 観覧者	常設展 観覧者	観覧者計 (b)	1日 あたり (b/a)	
まんが家 藤子・F・不二雄の「SF」 (すこし・ふしぎ)	平成26年4月1日～6月2日 (平成26年3月20日～6月2日)	55 (65)	26,346 (30,393)	8,683 (10,021)	8,441 (9,675)	17,124 (19,696)	311 (303)	※
風の盆 深奥の心をさぐる	平成26年7月26日～10月6日	64	25,055	4,338	4,458	8,796	137	
川の文学（前期・後期）	前期 平成26年10月30日～12月23日 後期 平成27年1月28日～3月2日	77	26,109	2,626	2,675	5,301	69	
三禅定の旅 立山・白山・富士山をめぐる	平成27年3月13日～3月31日 (平成27年3月13日～5月11日)	15 (45)	4,047 (17,906)	585 (4,150)	537 (4,262)	1,122 (8,412)	75 (187)	※
常設展のみ		94	34,309		3,594	3,594	38	
合 計		305	115,866	16,232	19,705	35,937	118	
休館日		60						

開館日数／305日 うち 臨時開館2日（4月29日、9月2日）

休館日数／60日

開館延長／4日 展示部門を18時まで延長

開館時間／9時30分から17時まで（展示室への入館は16時30分まで）

休 館 日／火曜日（祝日を除く）、祝日の翌日、年末年始（12月28日から1月4日）

※年度をまたぐ企画展については26年度分の数値（上段）と全会期中の数値（下段）を併記

(2)研修室の利用状況

年	月	開館 日数	休館 日数	研修室101		研修室102		研修室103	
				件数	人数	件数	人数	件数	人数
26	4月	26	4	28	698	19	63	43	389
	5月	27	4	23	890	24	141	42	379
	6月	26	4	15	391	27	159	37	308
	7月	26	5	27	543	30	120	39	293
	8月	27	4	46	1,475	23	108	34	281
	9月	26	4	26	616	19	79	48	339
	10月	27	4	22	581	20	115	44	311
	11月	26	4	29	887	18	111	44	301
	12月	23	8	19	513	13	54	41	358
27	1月	23	8	21	500	18	61	25	173
	2月	23	5	22	545	15	88	33	263
	3月	25	6	13	221	13	78	35	272
合 計		305	60	291件	7,860人	239件	1,177人	465件	3,667人

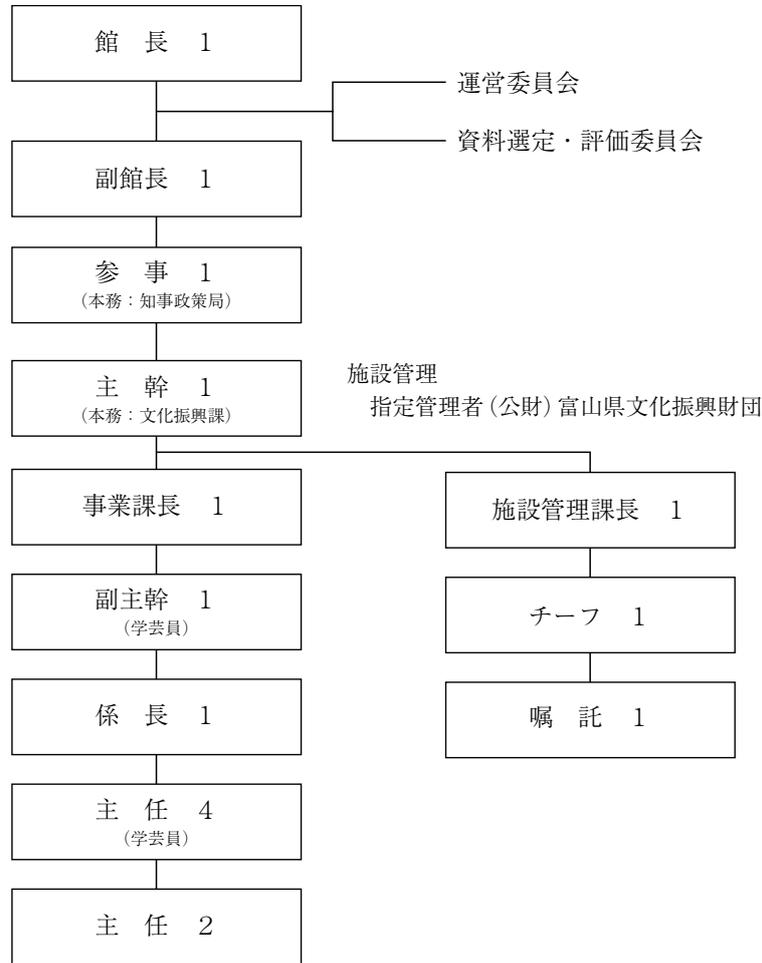
年	月	研修室201		研修室202		和 室		合 計	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
26	4月	30	111	6	18	10	41	136	1,320
	5月	21	90	10	24	8	31	128	1,555
	6月	33	115	14	42	11	39	137	1,054
	7月	38	137	28	55	13	44	175	1,192
	8月	26	92	13	29	3	20	145	2,005
	9月	26	104	12	38	13	42	144	1,218
	10月	32	110	16	30	11	34	145	1,181
	11月	31	101	11	41	16	87	149	1,528
	12月	33	107	10	27	6	20	122	1,079
27	1月	35	122	19	55	7	35	125	946
	2月	34	92	16	43	6	20	126	1,051
	3月	36	107	12	39	9	29	118	746
合 計		375件	1,288人	167件	441人	113件	442人	1,650件	14,875人

(3)年度別利用状況

区 分	開館日数	入館者	企画展 観覧者	常設展 観覧者	観覧者 合 計	1 日 当たり	研修室利用	
							件数	人数
平成24年度	222	121,211	21,653	30,668	52,321	236	1,364	11,807
平成25年度	307	126,470	25,017	30,431	55,448	181	1,337	12,592
平成26年度	305	115,866	16,232	19,705	35,937	118	1,650	14,875
合 計	834	363,547人	62,902人	80,804人	143,706人	172人	4,351件	39,274人

3. 機構

平成27年3月31日現在



□指定管理者の指定状況

平成24年7月～平成26年度

(公財)富山県文化振興財団

□職員名簿

職	氏名	備考
館長	中西 進	
副館長	熊野 真	兼務 生活環境文化部次長
参事	松島 吉信	本務 知事政策局参事
主幹	橋本 隆	本務 文化振興課主幹
事業課長	守内 紀子	
副主幹	福江 充	学芸員
係長	川渕 貴	兼務 文化振興課
主任	石王丸夏陽子	学芸員
主任	綿引 香織	学芸員
主任	大川原竜一	高岡市民文化振興事業団へ派遣
主任	小林加代子	学芸員
主任	山崎 就弘	本務 文化振興課
主任	大蔵 良輔	兼務 文化振興課
施設管理課長	富岡 准二	
チーフ	長井 秀年	
嘱託	魚屋美智乃	

4. 組織

平成27年3月31日現在

高志の国文学館運営委員会委員

氏名	役職等
生田 美秋	世田谷文学館学芸部長
瀬川 信子	公募委員、県 PTA 連合会家庭教育委員長
高木 繁雄 ※	(株)北陸銀行特別顧問
多田 慎一	第一物産(株)代表取締役会長
飛田 久子	富山県婦人会理事
中井 敏郎	東亜薬品(株)代表取締役社長
マリ・クリスティーン	富山大学客員特別研究員
八木 光昭	聖徳大学文学部教授
吉田 泉	(一社)富山県芸術文化協会会長
米田 憲三	富山県歌人連盟会長

※委員長

ふるさと文学資料選定・評価委員会委員

①書籍等

氏名	役職等
河原 桂介	とやま同人誌会会長
晒谷 和子	高岡市立博物館長
久泉 迪雄	日本短歌協会副理事長、富山県歌人連盟名誉会長
広井 睦	富山県立図書館長
八木 光昭	聖徳大学文学部教授

②絵画

氏名	役職等
大熊 敏之	富山大学大学院芸術文化研究科教授
島 敦彦	国立国際美術館副館長
福永 治	広島市現代美術館長

高志の国文学館アドバイザー

氏名	役職等
篠田 正浩	映画監督
滝田洋二郎	映画監督
藤子不二雄 [Ⓐ]	漫画家

IV 資 料

沿革

年 月 日	事 項
平成20年 6月 2日	ふるさと文学魅力推進検討委員会を設置
10月	ふるさと文学の振興に関する県民アンケート調査を実施
平成21年 2月 3日	ふるさと文学魅力推進検討委員会報告「ふるさと文学の振興に関する報告書」
6月12日	ふるさと文学資料評価・活用委員会を設置
11月10日	知事公館を廃止し、文学館の建設候補地とすることを発表
平成22年 2月 4日	ふるさと文学資料評価・活用委員会報告 「ふるさと文学の拠点施設の整備・運営にかかる基本的な考え方」
3月31日	「富山県ふるさと文学館（仮称）整備基本方針」を策定
3月31日	富山県知事公館廃止
5月17日	富山県ふるさと文学館（仮称）開設準備委員会を設置
11月19日	館長予定者として辺見じゅん氏が顧問に就任 アドバイザーとして中西進氏、篠田正浩氏、藤子不二雄 ^④ 氏、滝田洋二郎氏が就任
平成23年 4月 5日	公募したレストラン部門に「ラ・ベットラ・ダ・オチアイ」の出店が決定
7月 4日	建築工事に着手
9月 5日	名称を「高志の国文学館」に決定
9月21日	辺見じゅん顧問急逝
9月28日	高志の国文学館条例を一部施行
12月 1日	中西進アドバイザーが館長に就任
平成24年 1月 4日	高志の国文学館開館日を7月6日に決定
3月23日	高志の国文学館の指定管理者に（公財）富山県文化振興財団を指定
7月 3日	高志の国文学館建築工事竣工
7月 6日	高志の国文学館条例一部改正
7月 6日	開館
7月 6日	開館記念展「大伴家持と越中万葉－風土とこだまする家持の心」開催
7月 8日	開館記念講演会「日本文化の底流」五木寛之氏
7月15日	入館者1万人達成
8月 8日	秋篠宮同妃両殿下並びに佳子内親王殿下ご来館
9月23日	辺見じゅん先生の思い出を語る会 開催
12月 8日	開館記念展Ⅱ「富山が育んだ少年時代－小説・漫画・映画が描く疎開少年の長い道－」開催
平成25年 2月 3日	入館者10万人達成
3月20日	特別展「おおかみこどもの雨と雪－大自然に生きる母と子の物語－」開催
4月10日	写真展「入江泰吉と奈良を愛した文士たち」開催
5月26日	入館者15万人達成
7月 7日	特別展「立山曼荼羅を文学する」開催
7月 7日	開館一周年記念事業 朗読劇「天の夕顔」開催
8月10日	開館一周年特別展「辺見じゅんの世界」開催
9月19日	「観月の会」開催
10月 5日	日本の美を考える秋の集い 開催
10月10日	入館者20万人達成
10月18日	高円宮妃殿下ご来館
11月 3日	中西進館長 文化勲章受章
11月17日	企画展「『世界のムナカタ』を育んだ文学と民藝－棟方志功の感応力」開催
12月14日	中西進館長 富山県特別栄誉賞授与式・文化勲章受章記念講演会 開催
平成26年 3月20日	企画展「まんが家 藤子・F・不二雄の「SF」（すこし・ふしぎ）」開催
4月 6日	入館者25万人達成
4月26日	棟方志功未公開作品特別展示 開催
7月26日	企画展「風の盆 深奥の心をさぐる」開催
8月24日	入館者30万人達成
10月10日	ギャラリー展「竹久夢二展」開催
10月30日	企画展「川の文学－うつりゆく富山の歴史の中で－」開催
平成27年 1月 7日	ギャラリー展「『冷光文庫』展－富山におり立った「雪の女王」を訪ねて－」開催
1月28日	企画展「川の文学 美しきふるさと－富山の川をめぐる文学と美術の交響－」開催
3月13日	企画展「三禪定の旅－立山・白山・富士山をめぐる－」開催

V 關係法令

高志の国文学館条例

平成23年 9月28日

富山県条例第41号

改正 平成24年 6月29日条例第38号

平成26年 3月26日条例第21号

高志の国文学館条例を公布する。

高志の国文学館条例

(趣旨)

第1条 この条例は、高志の国文学館の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 富山県の自然及び風土の中ではぐくまれた文学作品その他の文学関係資料を紹介し、文学に関する県民の知識を深め、教養の向上を図るとともに、県民自らが親しみ、学び、創造し、交流することができるよう、県民に文学を中心とする文化活動の場を提供し、もって教育、学術及び文化の振興並びに心豊かな地域社会の形成に寄与するため、高志の国文学館（以下「文学館」という。）を設置する。

(位置)

第3条 文学館は、富山市に置く。

(事業)

第4条 文学館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 文学に関する書籍、原稿、文献、写真、フィルムその他の資料及び文学者に関する資料（以下「文学資料」という。）を収集し、保管し、及び展示し、並びに閲覧に供すること。
- (2) 文学資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、及び研修室等を設置してこれを利用させること。
- (3) 文学に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を開催すること。
- (4) 文学資料に関する専門的な調査研究を行うこと。
- (5) 文学資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、文学館の設置の目的を達成するために必要な事業

(指定管理者による管理)

第5条 知事は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であつて知事が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に文学館の管理を行わせるものとする。

(指定管理者が行う業務)

第6条 前条の規定により指定管理者に行わせる管理の業務は、次に掲げる業務とする。

- (1) 文学館の施設及び設備の維持管理に関する業務

- (2) 第13条第1項の規定による専用使用の承認に関する業務

- (3) 第15条第1項に規定する使用料の徴収に関する業務

- (4) その他文学館の管理に関して知事が必要と認める業務（休館日）

第7条 文学館の休館日は、次に掲げる日とする。ただし、知事は、特に必要があると認めるときは、休館日以外の日に休館し、又は休館日に開館することができる。

- (1) 火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たる場合を除く。）

- (2) 休日の翌日（その日が日曜日、土曜日又は休日に当たる場合は、その日後においてその日に最も近いこれらの日以外の日）

- (3) 12月28日から翌年の1月4日までの日

(開館時間)

第8条 文学館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、研修室及び和室の開館時間については午前9時30分から午後9時まで、駐車場の開館時間については午前9時から午後9時30分までとする。

2 前項の規定にかかわらず、知事は、特に必要があると認めるときは、開館時間を臨時に変更することができる。

(平24条例38・一部改正)

(入館の拒否及び制限)

第9条 指定管理者は、文学館に入館しようとする者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、入館を拒否することができる。

- (1) 他の入館者に迷惑となる行為をするおそれがあるとき。

- (2) 施設、設備又は文学資料（次条第1項第2号において「施設等」という。）を汚損し、又は損傷するおそれがあるとき。

2 指定管理者は、文学館の管理上必要があると認めるときは、入館を制限することができる。

(遵守事項等)

第10条 文学館に入館した者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 他の入館者に迷惑となる行為をしないこと。

- (2) 施設等を汚損し、又は損傷しないこと。

- (3) 指定された場所以外の場所で喫煙又は飲食をしないこと。

- (4) その他知事が特に指示した事項

2 知事は、文学館に入館した者が前項の規定に違反したときは、その者に退館を命ずることができる。

(常設展示観覧料及び企画展示観覧料)

第11条 常設展示室において展示している文学資料を観

覧しようとする者は、別表第1に定める金額の常設展示観覧料を納めなければならない。ただし、企画展示観覧料を納める者は、この限りでない。

2 企画展示室において特別に展示している文学資料を観覧しようとする者は、別表第1に定める金額の企画展示観覧料を納めなければならない。

(平24条例38・一部改正)

(特別観覧)

第12条 文学館に展示し、又は保管している文学資料について学術研究等のために模写、模造、撮影等をしようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

2 前項の承認には、文学資料の管理上必要な条件を付することができる。

3 第1項の承認を受けた者は、別表第1に定める金額の特別観覧料を納めなければならない。

(平24条例38・一部改正)

(専用使用の承認等)

第13条 文学館の施設のうち別表第1に掲げるものを専用して使用しようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。承認を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

2 指定管理者は、前項の承認を受けようとする者が第9条第1項各号のいずれかに該当すると認めるとき、その他文学館の設置の目的を達成するについて不適当と認めるときは、前項の承認をしないものとする。

3 第1項の承認には、文学館の管理上必要な条件を付することができる。

(平24条例38・一部改正)

(施設使用料及び駐車料金)

第14条 前条第1項の承認を受けた者(以下「専用使用者」という。)は別表第1に定める金額の施設使用料を、駐車場を使用する者は別表第2に定める金額の駐車料金を納めなければならない。

(平24条例38・一部改正)

(使用料の徴収方法)

第15条 常設展示観覧料、企画展示観覧料及び特別観覧料並びに施設使用料及び駐車料金(以下「使用料」という。)は、知事の発行する納入通知書により徴収する。ただし、これにより難い場合においては、口頭又は掲示の方法により現金で徴収する。

2 使用料は、前納とする。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(平24条例38・一部改正)

(使用料の減免)

第16条 知事は、特別の理由があると認めるときは、使用料を減免することができる。

(使用料の還付)

第17条 既に徴収した使用料は、還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(専用使用の承認の取消し等)

第18条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、第13条第1項の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

(1) 専用使用者がこの条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。

(2) 専用使用者が偽りその他不正の手段により第13条第1項の承認を受けた事実が明らかとなったとき。

(3) 専用使用者が第13条第3項の規定による承認の条件に違反したとき。

(4) その他文学館の管理上特に支障があると認められるとき。

(高志の国文学館運営委員会)

第19条 文学館に高志の国文学館運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会は、文学館の運営に関し知事の諮問に応ずるとともに、知事に対し意見を述べるものとする。

第20条 委員会は、委員10人以内で組織する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

第21条 委員会に、委員長及び副委員長1人を置く。

2 委員長及び副委員長は、それぞれ委員が互選する。

3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(規則への委任)

第22条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成23年10月1日から施行する。ただし、第5条から第21条まで、附則第2項及び別表第1の規定は、規則で定める日から施行する。

(平成24年規則第40号で附則第1項ただし書に規定する規定は、平成24年7月6日から施行)

(平24条例38・一部改正)

(施設使用料の特例)

2 前項の規則で定める日から起算して2年を経過する日までの間における別表第1の4の規定の適用については、同表中「4,350円」とあるのは「2,900円」と、「860

円」とあるのは「570円」と、「3,890円」とあるのは「2,590円」と、「770円」とあるのは「510円」と、「1,390円」とあるのは「930円」と、「280円」とあるのは「190円」とする。

(平24条例38・平26条例21・一部改正)

附 則 (平成24年条例第38号)

(施行期日)

- この条例は、平成24年7月6日から施行する。
(経過措置)
- この条例の施行の日から平成25年3月31日までの間における第6条の規定の適用については、同条第1号中「施設」とあるのは「施設(駐車場を除く。)」と、同条第3号中「使用料」とあるのは「使用料(駐車料金を除く。)」とする。

附 則 (平成26年条例第21号) 抄

(施行期日)

- この条例は、平成26年4月1日から施行する。
(高志の国文学館条例等の一部改正に伴う経過措置)
- この条例の施行の際現に第8条、第12条、第15条、第19条、第20条、第33条又は第34条の規定による改正前のそれぞれの条例の規定により承認を受けている者の当該承認に係る使用料又は手数料の額については、第8条、第12条、第15条、第19条、第20条、第33条又は第34条の規定による改正後のそれぞれの条例の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表第1 (第11条、第12条、第13条、第14条関係)

(平24条例38・旧別表・一部改正、平26条例21・一部改正)

1 常設展示観覧料

区 分	金額 (1人1回につき)	
	個人	20人以上の団体
大学の学生及びこれに準ずる者	160円	100円
一般	200円	160円

備考 小学校の児童、中学校の生徒、高等学校の生徒及びこれらに準ずる者に係る常設展示観覧料は、無料とする。

2 企画展示観覧料

1人1回につき1,500円の範囲内で知事が定める金額

3 特別観覧料

1回1点につき4,100円の範囲内で知事が定める金額

4 施設使用料

区 分		使用時間3時間までの金額	超過時間1時間の金額
研修室1	全部使用	14,160円	3,540円
	2分の1使用	7,040円	1,760円
研修室2		4,350円	860円
研修室3		3,890円	770円
研修室4		1,390円	280円
研修室5		1,390円	280円
和室		1,670円	330円
附属設備		実費を勘案して知事が定める額	

備考

- 使用時間1時間未満の端数は、1時間として計算する。
- 使用時間を短縮した場合においても、施設使用料は、減額しない。

別表第2 (第14条関係)

(平24条例38・追加)

種 別	単 位	金 額
基本料金	入場した時から1時間までにつき1台	320円
加算料金	入場した時から1時間を超える時間30分までごとにつき1台	110円

高志の国文学館条例施行規則

平成24年7月5日

富山県規則第43号

高志の国文学館条例施行規則を次のように定め、公布する。

高志の国文学館条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、高志の国文学館条例（平成23年富山県条例第41号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(入室時間)

第2条 高志の国文学館（以下「文学館」という。）の常設展示室及び企画展示室に入室できる時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、指定管理者は、特に必要があると認めるときは、知事の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

(特別観覧の承認申請)

第3条 条例第12条第1項の規定により文学館に展示し、又は保管している文学資料（条例第4条第1号に規定する文学資料をいう。第8条において同じ。）の模写、模造、撮影等（以下この条において「特別観覧」という。）の承認を受けようとする者は、特別観覧をしようとする日の7日前までに、高志の国文学館文学資料特別観覧承認申請書（様式第1号）を知事に提出するものとする。

(専用使用の承認申請)

第4条 条例第13条第1項の規定により文学館の施設の専用使用の承認を受けようとする者は、高志の国文学館施設専用使用承認申請書（様式第2号）を指定管理者に提出するものとする。

2 前項の申請書は、専用して使用しようとする日（次条第1項において「専用使用日」という。）の3月前から前日までの間に提出するものとする。ただし、指定管理者が文学館の施設の使用に支障がないと認めるときは、この限りでない。

(専用使用の変更)

第5条 条例第13条第1項の規定により文学館の施設の専用使用の承認を受けた者（次項及び第7条において「専用使用者」という。）は、専用使用日を変更しようとするときは、専用使用日の前日までに指定管理者の承認を受けるものとする。

2 専用使用者は、やむを得ない理由により当該承認に係る時間を超えて文学館の施設を使用する必要があるときは、あらかじめ指定管理者の承認を受けるものとする。

(駐車場を使用できる自動車)

第6条 文学館の駐車場を使用することができる自動車は、道路交通法（昭和35年法律第105号）第3条の普通

自動車（積載物又は取付物を含めて、長さ5メートル以下、幅2メートル以下、高さ2.2メートル以下のものに限る。）とする。

(原状回復及び点検)

第7条 専用使用者は、その使用を終えたときは、直ちに施設及び設備を原状に復するとともに、指定管理者の点検を受けるものとする。

(施設等の汚損又は損傷の届出)

第8条 文学館の入館者は、施設、設備又は文学資料を汚損し、又は損傷したときは、直ちにその旨を指定管理者に届け出て、その指示に従うものとする。

(高志の国文学館運営委員会)

第9条 高志の国文学館運営委員会（以下「委員会」という。）は、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(細則)

第10条 この規則に定めるもののほか、文学館の管理及び運営に関し必要な事項は、知事が定める。

附 則

この規則は、平成24年7月6日から施行する。

様式第1号（第3条関係）

高志の国文学館(第1号関係)	
高志の国文学館文学資料特別観覧承認申請書	
富山県知事 様	申請者 住所 〒 市 町 丁目 番 号
次に示す、特別観覧をしようとする資料を、	
題名	冊数
観覧希望の日時	年 月 日 時 分 から 年 月 日 時 分 まで
観覧の方法	観覧 模写 模造 撮影
観覧の目的	
備考	

様式第2号（第4条関係）

高志の国文学館(第2号関係)				
高志の国文学館施設専用使用承認申請書				
富山県知事 様	申請者住所 〒 市 町 丁目 番 号			
施設専用使用承認申請書	施設専用使用日			
次に示す、施設専用使用をしようとする期間を、				
専用使用日	専用使用時間	専用使用料	専用使用料の支払方法	専用使用料の支払期日
年 月 日 時 分 から 年 月 日 時 分 まで	時 分 から 時 分 まで	円	現金	年 月 日
年 月 日 時 分 から 年 月 日 時 分 まで	時 分 から 時 分 まで	円	現金	年 月 日
専用使用料の支払、引当金の取付	専用使用料額	円		

高志の国文学館の職員の 勤務時間に関する規程

平成24年7月5日
富山県訓令第10号

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程を次のように定め、公表する。

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程
(趣旨)

第1条 この訓令は、県職員及び県費負担教職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例（昭和26年富山県条例第73号）第4条第1項及び富山県職員の勤務時間に関する規程（昭和27年富山県訓令第1号）第3条の規定に基づき、高志の国文学館の職員（知事の指定する者を除く。以下「職員」という。）の勤務時間に関し必要な事項を定めるものとする。

(勤務時間)

第2条 職員の勤務時間は、午前8時30分から午後5時15分までとする。

2 高志の国文学館長（以下「館長」という。）は、業務の状況により必要があると認めるときは、勤務時間を繰り上げ、又は繰り下げることができる。

(週休日及び勤務時間の割振り)

第3条 館長は、職員の週休日を日曜日及び土曜日以外の日とすることができる。

2 職員の勤務時間の割振りは、館長が定める。

(休憩時間)

第4条 職員の休憩時間は、1時間とし、館長が勤務時間の途中に置く。

附 則

この訓令は、平成24年7月6日から施行する。

高志の国文学館の 使用料の額について

平成24年7月5日
富山県告示第317号

改正 平成26年3月26日告示第148号

高志の国文学館の使用料の額について

高志の国文学館条例（平成23年富山県条例第41号）別表第1の4の表の知事が定める額は、次のとおりとし、平成24年7月6日から施行する。

品名	単位	金額
ビデオプロジェクター (スクリーン付)	1式	2,930円
拡声装置(マイク付)	1式	2,490円

備考 この表に掲げる金額は使用時間3時間についての額とし、使用時間3時間未満の端数は3時間として計算する。

改正文（平成26年告示第148号）抄

平成26年4月1日から施行する。

平成26年度 高志の国文学館 年報

平成27年11月25日発行

編集 高志の国文学館

富山県富山市舟橋南町2-22

TEL 076-431-5492

印刷 北日本印刷株式会社

発行 高志の国文学館
